

JAグループ神奈川

<http://www.jakanagawa.gr.jp/>

バックナンバーはこちらから



*今号は、オンラインによるリモート取材で記事をまとめました。

JAグループ神奈川は、
神奈川のアスリートを応援しています。

十種競技とは、1000m、走り幅跳び、砲丸投げ、走り高跳び、400m、110m障害、円盤投げ、棒高跳、やり投、1500mを2日間で競う混成競技

強の称号だけは譲れない。

の場とするためにも、学生最

来春以降の所属先が未定の21

歳にとって、最高のアピール

本インカレに向け、この夏は

投てき種目の強化に充てる。

が取れそうですね」と思わず

贈られると「おいしくて疲れ

「ぎゅっと、神奈川みかん」が

J Aグループ神奈川から県

内産の温州ミカン製ジュース

く競技は疲労度も激しいが、

もできた。

2日間で10種目を戦い抜

と200点くらいは伸ばせた

と思う」と、さらなる伸びし

るを自分の中に見いだすこと

もできた。

じゃ
いいJAん!

かながわ明日すリート 21

陸上・
十種競技



原口 凜 (21)
*
横浜市出身

「走る・飛ぶ・投げる」といった陸上選手としての全要素が求められる混成競技。究極の万能選手として優勝者に与えられる「キング・オブ・アスリート」の称号を、国士舘大学4年の原口凜は追い求め続けている。

横浜市立高田中時代は1500mを得意としていた。最後の夏に全国中学大会の出場を逃したのを機に混成競技に転向し「多くの種目を一人で行なっていくのが、この競技の面白さ」と没頭していく。

武相高校で潜在能力が引き出され、3年の時に全国高校総体(八種競技)で準優勝。大学入学直後の2018年にはアジアジュニア選手権3位と、活躍の舞台を広げていった。

6月中旬の日本選手権は「日本のトップ選手たちとの距離感を感じたかった」と社団法人たちに挑み、6位入賞を果たした。投てき種目では壁を痛感したものの、春から取り組んできた走り高跳びや全体で1位となった1500mなど、手応えを感じられた大会でもあった。「全体でもあと200点くらいは伸ばせたと思う」と、さらなる伸びしるを自分の中に見いだすこともできた。

2日間で10種目を戦い抜く競技は疲労度も激しいが、JAグループ神奈川から県内産の温州ミカン製ジュース「ぎゅっと、神奈川みかん」が贈られると「おいしくて疲れが取れそうですね」と思わず白い歯がこぼれた。

学生最後の舞台・9月の日本インカレに向け、この夏は投てき種目の強化に充てる。来春以降の所属先が未定の21歳にとって、最高のアピールの場とするためにも、学生最